

文部科学省委託事業「総合的な放課後対策推進のための調査研究」事業

地域協働による子ども主体の放課後の居場所づくり 報告書

2009年3月



目 次

本事業の概要	2
遊びの広場実施イメージ図	4
本事業のアンケート調査報告	6
各地域の取り組み	10
○盛岡市立月が丘小学校遊びの広場（月が丘小遊びの学校）	11
○宇都宮市立今泉小学校遊びの広場	20
○長野市立下氷鉋小学校遊びの広場	30
○松江市立古志原小学校遊びの広場（放課後わくわく遊び）	37
○阿南市立平島小学校遊びの広場	45
（さわやか福祉財団自主事業）	
○和歌山市立貴志南小学校遊びの広場	52
地域コーディネーター・実行委員・協力団体等一覧	56

本事業の概要

【目的】さわやか福祉財団が、文部科学省委託事業「総合的な放課後対策推進のための調査研究」事業を受託した目的は、地域の多様な人的・物的社会資源を活用して、子ども主体の放課後の子どもの居場所（「遊びの広場」）づくりを行い、子どもが自立するために生きる力である人間力（自助と共助の力）を育成することです。

現在、少子化、核家族化が進行する中で、地域社会が疎遠になり、各家庭が孤立してきており、社会全体として子育て支援が課題となっています。その様な状況の中で、子どもの健全育成を目的にした活動が多く行われていますが、ややもすると子ども主体ではなく大人主体（過干渉）となっている活動のケースや、子ども主体のように見えて実際は放任しているだけというような活動が多く見受けられ、本来子どもたちが持っている人間力の育ちを損なっていることも多いように思われます。

そこで、本事業では、自ら考え、共同して遊ぶ「遊びの広場」モデル事業を実施し、子どもたちの生きる力である人間力を育むことに取り組みました。同時に、地域の人たちにも参加してもらい、本事業を通じて、子ども主体の重要性、必要性を理解し、継続していただくように注力しました。

【実施方法】その実施方法を、順を追ってご紹介します。

①「遊びの広場」のモデル校選定

「遊びの広場」は、本事業を受け、子ども人間力を地域みんなで育てる場としてモデル的に取り組んでもらった5つの小学校での取り組みの名称です。「遊びの広場」は、全国を北海道・東北、関東、中部・北陸、近畿・中国、四国・九州の5ブロックに分け、各ブロックから1校ずつ、ご協力いただき、地域の方々の協力も得ながら、放課後や週末に子ども主体の「遊びの広場」を実現しました。

モデル校・盛岡市立月が丘小学校・宇都宮市立今泉小学校・長野市立下氷鉋小学校
・松江市立古志原小学校・阿南市立平島小学校

②「子ども会議」の募集

子ども会議は、子どもたち自身で遊びの広場で遊ぶ内容を決める会議です。6Pの「子ども会議実施状況表」の通り、合計16回実施しました。各校登録ベースで10人を超える子どもたちが参加しています。実施方法は、各校とも全校児童に募集を行い、「遊びの広場」での遊びを企画したい子どもたちに集まってもらいました。保護者の方々にもご理解をいただくためのチラシの配布等を学校を通じて行いました。低学年から高学年までの参加した子どもたちにはどんな遊びをしたいか話し合いをしてもらいますが、どの子も大人が驚くほど積極的で、遊びの企画を提案してくれます。大人（実行委員）にも参加してもらいますが、あくまでも“大人はリードはせずに、アドバイスや企画のサポートに徹し、決定権は子どもたちが持っている”というルールのもとに会議は進めてもらいます。その内容は本誌17P以降にご紹介しています。

③「実行委員会」の結成

実行委員会は、子ども会議で決まったことを、どのように実現し、サポートするかなどを協議する大人の会議で、直接子ども会議にも参加してもらい、子どもたちから出された意見を聞き、決定した遊びの具体化のために必要な材料の調達や地域の方々への周知、協力依頼、安全面の配慮などに取り組んでもらいます。子ども会議同様、合計22回実施しました。実行委員については56Pの一覧にご紹介の通り、教育委員会を始め、様々な地域の方々合計31人の方にご協力いただきました。

また、この実行委員に先立ち、各地域で実行委員の方々を始め、行政や団体、地域の方々に広くネットワークを持っている方を6人、各地域の地域コーディネーターとしてご協力いただきました。そのおかげで、実行委員他の協力団体等が結集して「遊びの広場」を実現することができました。

④「遊びの広場」の実施

遊びの広場は、全ての遊びが子ども会議の提案から実現したものであり、子ども会議のメンバーが主体となって、遊びを進めて行くことを基本としています。大人は遊びと一緒に参加したり、運営の協力をしたり、安全面に気を配るといったことを中心に参加してもらいます。地域の協力団体等については、56Pにご紹介の通り21に上ります。「遊びの広場」の内容は10P以降にご紹介しています。

【成果・効果】

以上のように、本事業は、子ども会議、実行委員会、遊びの広場によって構成されていますが、子ども会議、遊びの広場実施に当たっては子どもと大人に財団独自のアンケートを行いました。また、文部科学省によるアンケートも実施しました。6P以降に一部を掲載していますのでご覧ください。その内容をご紹介しますと、

○財団子ども会議アンケートから

62%の子どもが意見を十分言えた・言えた方だと答え、89%の子どもが次回も出たいと答え、子ども会議に意欲的であり、子ども会議は主体性の育成に効果があると思われる。

○財団遊びの広場アンケートから

子どもの声としては、83%が遊びの広場を続けたいと積極的に答え、57%が遊びの内容が面白かった、53%が友だちや違う学年の人と遊べたと答え、40%が大人のお仕着せでない遊びを作りたいと答えており、子どもたちの中に人間力の育ちを感じることができた。また、大人の96%が子どもたちの様子は積極的だったと答えており、その理由は遊びの内容66%、多学年が一緒42%、子どもたちの企画41%などであった。事業全体を通じて、協力し合う姿が多く見られるようになった64%、子ども会議での企画が良かった57%、遊びに工夫が見られるようになった57%、子どもたちの自主性が見られるようになった57%という答えが上位にきており、継続する中で子どもたちの人間力の育ちを大人も感じていたことが分かった。

○文部科学省アンケートから

保護者からはこの事業に参加してから、子どもが興味のあることは進んで調べるようになった64.4%、自分で考え遊ぶようになった・地域の行事に積極的に参加するようになった62.7%、年下の子の面倒をよく見るようになった57.7%などが上位に並び、当財団のアンケート同様、人間力の育ちを感じていることが分かった。

地域の方々も、88%が今後も活動して行きたいと答えており、地域の方々には本事業をご理解いただくとともに継続の意欲を示していただけたことに感謝している。

以上のことから、本モデル事業の目的であった地域の人々の協力のもと、子どもたち自らの力で自分たちの人間力（自助と共助）を育てる試みは、一定の成果を収めることができたと考えている。

【提案】あせらず・せかさず・しきらず・見守る

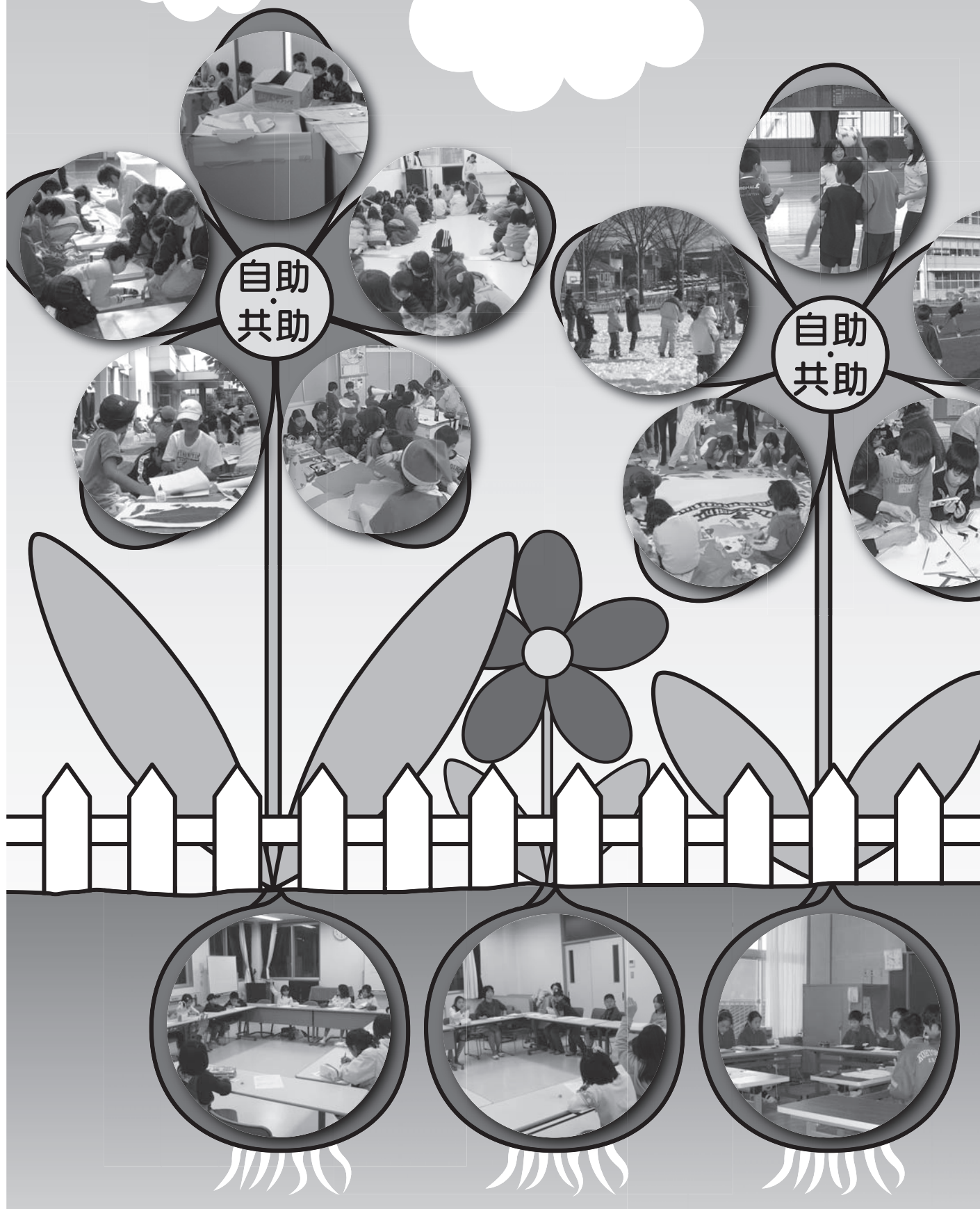
本事業に取り組んだ結果、見えてきた子どもの健全育成のキーワードです。次頁の本事業の遊びの広場実施イメージ図の中にご紹介しています。子どもの健全育成に携わる皆様には是非、このように取り組んでいただければと思う次第です。

最後に、皆様にはこの報告書を広くご活用いただければ幸いに存じます。今後とも、子どもと人間力を育む当財団の事業にご支援、ご協力を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

財団法人さわやか福祉財団

子どもと交わろうプロジェクトリーダー
有馬正史

“遊びの広場”で人間力を



育てよう!!

大人(実行委員会)のサポート



あせらず

せかさず

しきらず

見守る

子ども会議



本事業のアンケート調査報告

本事業については、5つ子ども会議、遊びの広場に対して、実施回ごとに子ども会議アンケート、遊びの広場アンケート（子ども対象）（大人対象）の3つのアンケート調査を行った。今回の報告は、各アンケートの回答を合計し、集計したものである。対象となる児童は、子ども会議の子ども延べ210人、遊びの広場に参加の子ども延べ1,457人、大人延べ366人。詳細は、下の表に掲載の通りである。文部科学省のアンケート（参加した子ども用・大人用・地域の実施協力者用）も実施した。誌面の都合上、それぞれのアンケートから成果について一部抜粋して紹介する。

本モデル事業実施状況

子ども会議実施状況(回数・参加人数)

実施校	対象	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	参加人数計	平均参加人数	
盛岡市立月が丘小学校	子ども	21	10	10	10	—	51	13	
	大人	4	3	2	2	—	11	3	
宇都宮市立今泉小学校	子ども	21	16	18	17	18	90	18	
	大人	5	6	6	6	6	29	6	
長野市立下氷鉋小学校	子ども	9	8	—	—	—	17	9	
	大人	8	10	—	—	—	18	9	
松江市立古志原小学校	子ども	10	11	—	—	—	21	11	
	大人	6	5	—	—	—	11	6	
阿南市立平島小学校	子ども	5	22	4	—	—	31	16	
	大人	2	5	2	—	—	9	5	
和歌山市立貴志南小学校(自主事業分)	子ども	18	—	—	—	—	18	9	
	大人	9	—	—	—	—	9	5	
文部科学省委託事業分							子ども計	210	14
							大人計	78	5
文部科学省委託事業 +自主事業分							子ども計	228	14
							大人計	87	5

実行委員会実施状況(回数・参加者数)

実施校	対象(大人)	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	参加人数計	平均参加人数
盛岡市立月が丘小学校	6人他	4	4	5	5	7	10	8	43	6
宇都宮市立今泉小学校	7人他	9	7	7	6	6	7	8	50	7
長野市立下氷鉋小学校	8人他	9	7	—	—	—	—	—	16	8
松江市立古志原小学校	8人他	6	5	—	—	—	—	—	11	6
阿南市立平島小学校	7人他	2	8	—	—	—	—	—	10	5
和歌山市立貴志南小学校(自主事業分)	9人	9	—	—	—	—	—	—	9	9
文部科学省委託事業分								大人計	130	7
文部科学省委託事業 +自主事業分								大人計	139	7

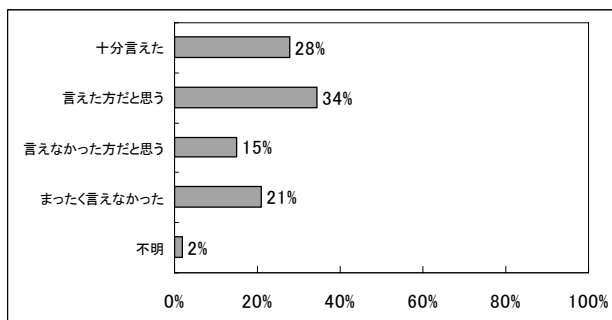
遊びの広場実施状況(回数・参加人数)

実施校	対象	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	参加人数計	平均参加人数	
盛岡市立月が丘小学校	子ども	62	110	104	75	138	489	98	
	大人	20	30	20	10	8	88	18	
宇都宮市立今泉小学校	子ども	111	119	96	108	103	537	107	
	大人	15	10	25	9	12	71	14	
長野市立下氷鉋小学校	子ども	18	16	18	42	—	94	24	
	大人	15	24	27	38	—	104	26	
松江市立古志原小学校	子ども	37	36	25	89	49	236	47	
	大人	6	6	21	16	11	60	12	
阿南市立平島小学校	子ども	30	35	21	15	—	101	25	
	大人	7	18	8	10	—	43	11	
和歌山市立貴志南小学校(自主事業分)	子ども	83	83	—	—	—	166	83	
	大人	25	21	—	—	—	46	23	
文部科学省委託事業分							子ども計	1,457	63
							大人計	366	16
文部科学省委託事業 +自主事業分							子ども計	1,623	65
							大人計	412	16

(1) 子ども会議アンケート（子ども用：財団実施分から抜粋）

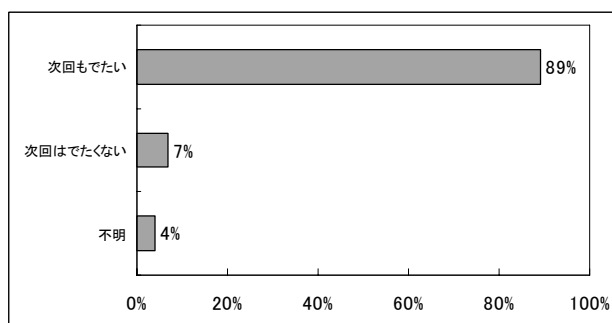
○意見を言うことができたか

十分言えた 28%、言えた方だと思う 34%を合わせて 62%となり、積極的に発言した子どもたちが多かったことが分かった。



○次回も子ども会議に出たいか

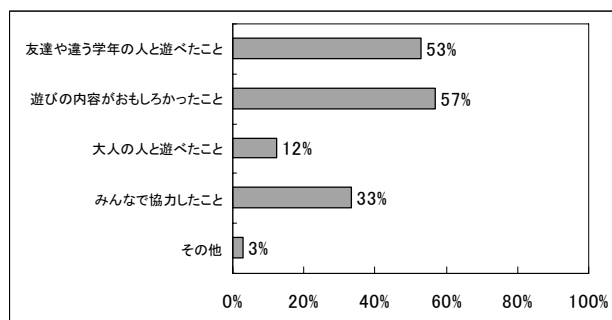
次回も出たいという意見が 89% に上り、自分たちの遊びを主体的に実現する場である子ども会議への意欲が高いことが分かった。



(2) 遊びの広場アンケート（子ども用：財団実施分から抜粋）

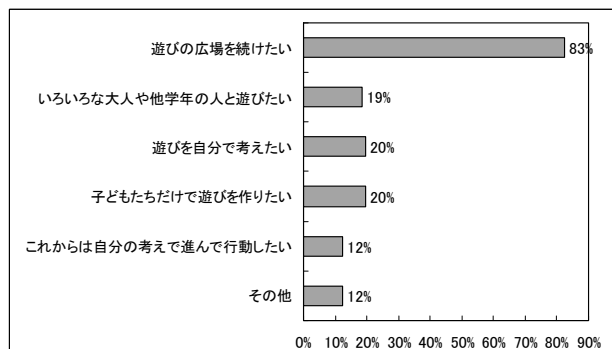
○参加してよかったこと

57%の子どもが遊びの内容が面白かったと答え、53%の子どもが友達や違う学年の人と遊べたことと答え、また 33%の子どもがみんなで協力したことと答えていることから、自助と共助の力が遊びの広場で発揮されていることが分かった。



○これからどうしたいか

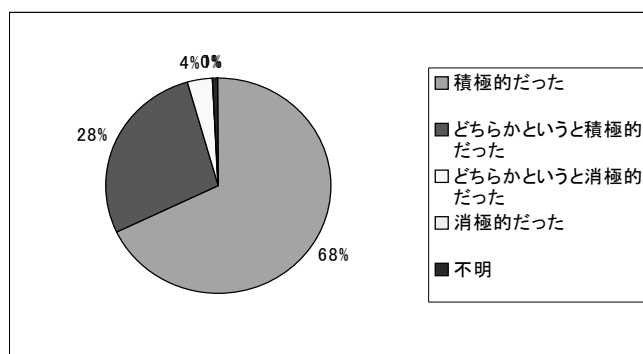
遊びの広場を続けたいが 83%と高く、遊びの広場に肯定的であることが分かった。また、遊びを自分で考えたい 20%と子どもだけで遊びを作りたい 20%を合わせると 40%の子どもたちが大人のお仕着せでない自分たちの遊びを作りたいと思っていることが分かった。



(3) 遊びの広場アンケート（大人用：財団実施分から抜粋）

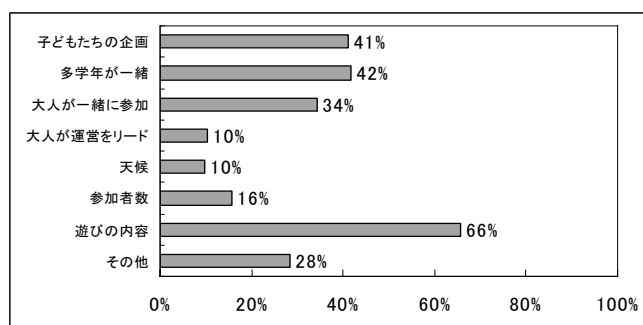
○子どもの活動状況

積極的、どちらかというと積極的を合わせると96%と、大人から見た感じも積極的に見えていたことが分かった。



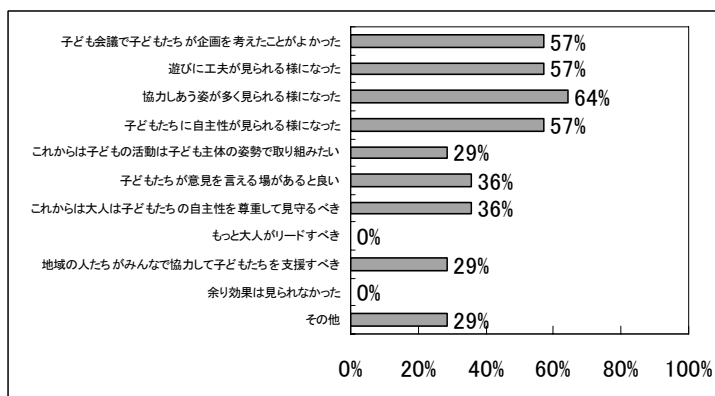
○その理由

遊びの内容が良かった66%、多学年が一緒だから42%、子どもたちの企画だから41%、の順となり、子どもたちの企画による遊びを異年齢の子どもたちが一緒に遊んだことが子どもたちを積極的にしたと考えていることが分かった。



○遊びの広場全体を通してどのように思うか

協力し合う姿が多く見られるようになった64%、子ども会議で企画を考えたことがよかった57%、遊びに工夫が見られるようになった57%、子どもたちに自主性がみられるようになった57%等が上位に上がり、継続する中で、人間力の育ちを大人が感じていたことが分かった。



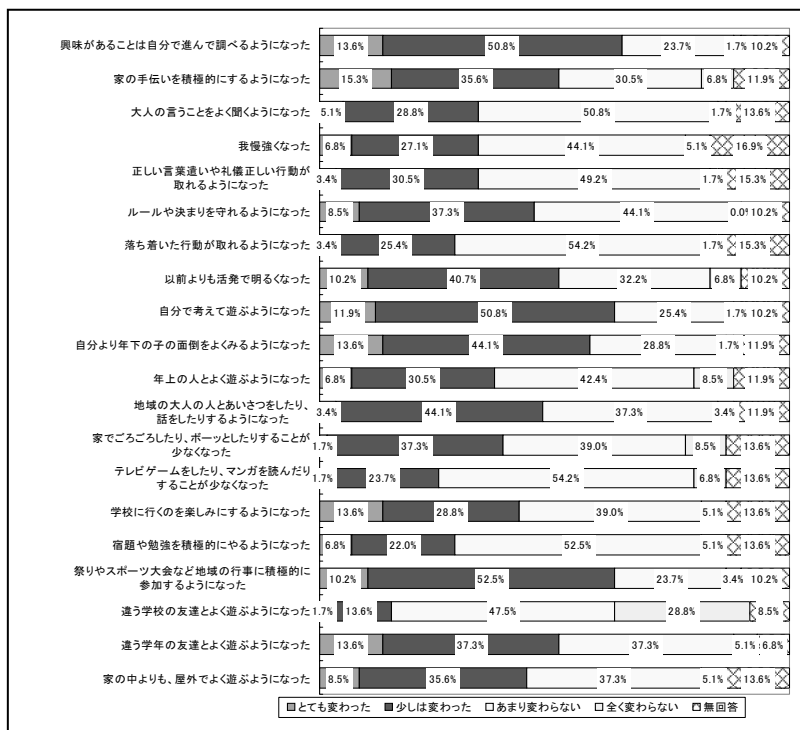
その他の意見

- ・子どもが先頭に立って上手にまとめていた
- ・異学年が打ち解けて、団体行動を学ぶ楽しさがあって良かった

(4) 文部科学省アンケート（保護者用から抜粋）

○お子さんが事業に参加してからどのような点がどれくらい変わったと感じますか

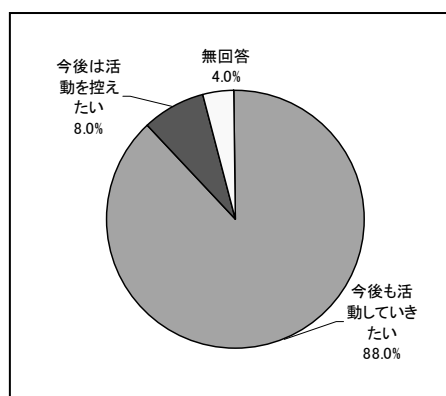
子どもが興味のあることは進んで調べるようになった64.4%、自分の手で考えて遊ぶようになった62.7%、年下の子の面倒をよく見るようになった57.7%という答えが上位に上がり、当財団のアンケート同様、子どもたちの人間力の育ちを感じていることが分かった。



(5) 文部科学省アンケート(地域の実施協力者用から抜粋)

○今後も同様に活動を継続していく意向はありますか

地域の人たちは、88%が今後も活動して行きたいと答え、本事業に理解を示すとともに、継続の意欲を示してくれていることが分かった。



各地域の取り組み

- 盛岡市立月が丘小学校遊びの広場（月が丘小遊びの学校）
 - 宇都宮市立今泉小学校遊びの広場
 - 長野市立下氷鉋小学校遊びの広場
 - 松江市立古志原小学校遊びの広場（放課後わくわく遊び）
 - 阿南市立平島小学校遊びの広場
- （さわやか福祉財団自主事業）
- 和歌山市立貴志南小学校遊びの広場

盛岡市立月が丘小学校

遊びの広場（遊びの学校）

月が丘小遊びの学校は、子ども会議の回を重ねることで、子どもたちの積極性や自発性が見られるようになってきた。また、異年齢集団による遊びを通じて、高学年の児童が低学年の児童に声をかけたり、場を譲ったりするなど思いやりの心も育ってきた。子どもは、大人に見守られるだけで、十分に成長するということを証明できる取り組みである。また保護者や地域の理解も得られ始めており、今後も取り組みを継続させることが求められる。

第1回「遊びの広場」(月が丘小遊びの学校)

実施日時：2008年7月26日(土)～27日(日)

場 所：月が丘小学校校庭

参 加：子ども62人 大人20人(計82人)

協力団体：月が丘小学校、月が丘小おやじの会、PTA、岩手大学天体クラブ

実施内容：

1) 1日目

- ① グループごとに夕食の献立作成、食材の買い出し：グループごとに電卓を使って、予算内で検討しながら買い物
- ② テント設営
- ③ 野外夕食調理実践
- ④ 夕食・片付け
- ⑤ 星空観察
- ⑥ 校舎内の夜の肝試し大会
- ⑦ テント内での語らい

2) 2日目

- ① 朝のラジオ体操
- ② 朝食
- ③ 樹木観察ゲーム

感 想：

- 子どもたちの表情がとていよいよいきいきとし、行動も積極的だった。
- 学年の違う子どもたちが打ち解けて団体行動を学ぶ楽しさがあった。
- 事前に子ども会議で夕食のメニューやその他の遊び方法を詰めていたので、当日はグループでリーダー(子ども会議メンバーが中心)を決め、話し合いながら考え、行動できたようだ。
- 2日間の遊びの学校を通じて、遊びを通して自分たちで考え、責任を持って安全に行動する練習ができたのではないと思う。各遊びのメニューのタイムスケジュールは予定通りとは行かず、時間管理に問題を残したが、全体的には大人は出すぎずサポート役に回り、子ども中心に運営は上手くいったと思う。



(子どもたちが協力して夕食の準備をした)



(出来上がったものを皆で美味しく食べた)

第2回「遊びの広場」(月が丘小遊びの学校)

実施日時：2008年11月1日(土) 11:30~12:00

場 所：月が丘小学校校庭

参 加：子ども110人 大人30人(計140人)

協力団体：月が丘小学校、月が丘小おやじの会、PTA、盛岡市少年指導員連絡協議会(月が丘小学校区の少年指導員)

実施内容：

- ・校庭での食材探しゲームを行った。今回の遊びの学校は、PTA 主催のプレースクールと同時にいわれその一連の流れの中で実施した。プレースクールは①作品作り(輪ゴム鉄砲作り)、②野外炊事(カレー作り)③ウオークラリー(配布物の食べ物探しゲーム)
- ・③のウオークラリー(配布物食べ物探しゲーム)が今回遊びの学校で取り組んだ内容である。食べ物探しの品物はデザート(みかん)とお菓子。配布する品物を隠すのではなく、品物名が書かれた紙カードを校庭内に隠しておき、それを時間内にグループごとに協力し、話し合いながらいかに早く探し当てるかというゲーム。
- ・紙カードを各グループが全員分発見したら、そのカードをもって、品物引き換え場所に行き、配布品物(みかん、お菓子)を受け取る。なかなかチームワークや段取り、相談が悪く、思うように発見できないチームもあった。グループにより差がでた。各グループは1年生~6年生が混じった混成グループで、高学年の児童が低学年の児童の面倒を見ながら、協力しながら校庭を一緒に探し回っていた。
- ・前後のスケジュールの間で時間的制約があり、30分程度の遊びであったが、校庭を走る場面や立ち止まってどこかをみんなで考える場面ありとなかなかそれぞれのグループの協力度合い、チームワークの大切さを子どもたちが遊びを通して考えるよい機会となった。

感 想：

親子集団ゲーム、野外炊飯(カレー作り)というプレースクールという恒例のPTA主催のイベントとタイアップして行った。子ども会議で出されたアイデアは食材を隠している場所まで写真などをヒントにして探し当てるといったものだったが、学校行事の都合から実施日が限定され、PTA行事とタイアップして行うこととなってしまった。PTA側と遊びの学校開催の趣旨理解の調整に苦慮し、時間的に遊びの学校実施時間が短時間ということになってしまった。また、実施内容もアレンジを加えて行わざるをえなかった。事前のPTAとの調整に手間取り、当日の時間進行管理など、おやじの会とPTA側との連携があまり上手くいかなかったのが反省点。2つのイベントをまとめる難しさを痛感した。当日は企画した子ども会議のメンバーを中心に遊びの学校の活動をしてくれたのが成果である。



(プレースクール野外炊飯の様子)



(異学年交流を楽しむ児童たち)

第3回「遊びの広場」 (月が丘小遊びの学校)

実施日時：2008年12月6日(土) 13:00～18:30

場 所：月が丘小学校校内

参 加：子ども104人 大人20人(計124人)

協力団体：月が丘小学校、月が丘小おやじの会

実施内容：

- ① 校内鬼ごっこ&宝探しゲーム
- ② 科学実験
- ③ 肝試し大会

感 想：

- 今回は開会、閉会まで遊びの学校の進行を子ども会議のメンバーが行った。
- 不十分ながら子どもが企画した遊びを子どもが進行管理して行うことができたようである。
- 肝試しの脅かし役に、子ども会議のメンバーも数名加わり、役割りの上でも変化が見られ積極さが出てきた。
- 校内鬼ごっこでは、鬼役のお父さん方が子どもたちをなかなか捕まえられず、本気を出して追いかけている姿が見られ微笑ましかった。
- 科学実験は、科学の不思議さを楽しみながら味わえた。理科離れが叫ばれる今日、このような企画は大切であり、子どもたちから遊びの提案ができたのは、単なる遊びではなく、学習にも意欲的に取り組みたいと感じている子ども、という点で評価できると思う。



(校内鬼ごっこ。廊下を自由に走り回る)



(科学実験室の様子。真剣に話を聞く子どもたち)

第4回「遊びの広場」 （月が丘小遊びの学校）

実施日時：2009年1月17日（土） 10:30～14:00

場 所：月が丘小校庭

参 加：子ども75人 大人10人（計80人）

協力団体：月が丘小学校、月が丘小おやじの会、PTA

実施内容：

- ①（冬の）雪上運動会—雪合戦、高学年はボールも使用しての雪合戦。障害物レース（ロープくぐり、馬とび、コーンに頭をつけて10回回り、ゴールまで走る）
- ②雪の中の宝探しゲーム
- ③温かい物作り（豚汁つくり）、お弁当持参

感 想：

- 子どもたちは雪の上で運動をしたが、今回の遊びの学校を通じて、子どもたちの運動能力が前と比べて体力的に低下しているのではと気づかされる場面が幾つかあった。例えば、雪合戦、雪球を投げる投げ方がどうもおかしい、遠くへ投げられない、ボールに頭をつけて10回転するともうふらふらしてまっすぐ歩けない子が多い（平衡感覚が弱い？）など心配な面も参加した親側から意見が寄せられた。日頃、家の中で過ごすことが多くなってしまっている子どもたちを象徴しているような気がした。
- 遊びの学校は、お父さん方のチームワークもよく、子どもたちの満面の笑顔も見られ、最後は豚汁作りで協力して作ってくれた。
- 回を重ねるごとに、子どもたちの主体性が着実に育ってきていることを感じた。
- 子どもたちに考える機会と実行にむけほんの少しの大人の出過ぎないサポートがあれば、子どもは子どもなりに考え、独自のユニークな発想ができるものだということができた。
- 子どもたちのこの芽をいかにしてまっすぐ伸ばすことができるか、それをどこまで周りの大人、親たちが辛抱強く見守り、彼らの意志を尊重して冒険させられるかにかかっているようにも感じた。



（雪上障害物レース。雪に足をとられて苦戦）



（助け合いながら豚汁を作った）

第5回「遊びの広場」(月が丘小遊びの学校)

実施日時：2009年2月28日(土) 17:00~19:00

場 所：月が丘学校小校内

参 加：子ども138人 大人8人(計146人)

協力団体：月が丘小学校、月が丘小おやじの会、PTA

実施内容：

校内肝試し大会

感 想：

- 脅かし役を募集したところ、自発的に6年生を中心に10人程度集まった。脅かされるという受身的な立場から、自分たちも脅かすという能動的な役回りに挑戦する姿勢が前回にも増して子どもたちに見られたのは嬉しい。
- 真っ暗な校舎で安全面はどうかと最初の時は心配したが、回を重ねるごとに子どもたちも要領をつかみ、余裕を持って心から楽しむことができたようである。
- 2人程度の真っ暗な中の心細い時間を会話しながらコミュニケーションをとりながら協力して進むということの大切さを遊びを通して学習できたのではないかと思う。
- 遊びの学校は今年度これで最後となるが、継続した取り組みでPTA、特にお母さん方の遊びの学校に対する理解も参加する児童数が増えてきていることから徐々に深まってきたように感じる。



(これから肝試しだ。全員いるかあ～?) (いない人はいないかあ?横の人、誰!?)

第1回子ども会議

実施日時：2008年7月25日 14:00～16:00

場 所：月が丘小学校2階会議室

参 加：子ども21人、大人4人（計25人）

内 容：

7月26日・27日に行われる第1回月が丘小遊びの学校にむけて、企画・計画作りの検討。

《会議内容》

○ 遊びの内容について

- 1日目・・①夕食の買い物
②校庭にテント設営
③夕食の調理、食事、片付け
④肝試し大会
⑤テントでの友達との語らい等
- 2日目・・①朝食はおやじの会にまかせる
②朝食後は樹木観察ゲーム

○ 班ごとにリーダー、その他連絡係などの役割を決めた。

○ 夕食で作るメニューを、班ごとで話し合っ決めて。

《会議の様子》

今回の子ども会議は初回なので、雰囲気や和らげるために屋内ゲームをしながら自己紹介を行った。子どもたちは、会議の後半あたりから慣れてきて、活発に意見が出るようになった。黒板での記録も途中から参加児童が担当した。



(あれもしたい、これもしたい)



(この遊びに賛成の人?)

第2回子ども会議

実施日時：2008年10月22日 13:00～15:00

場 所：月が丘小学校2階会議室

参 加：子ども10人、大人3人（計13人）

内 容：

11月1日開催予定の遊びの学校実施に向けた企画・計画作りの検討。

《会議内容》

遊びの内容『食材探しゲーム』

- 何の食材を使って、どのように探すのかを決めた。
- お菓子や果物を事前に校庭に隠しておき、それをみんなで探す。
- 探し方は、クイズ形式で隠している場所につながるヒントを頼りに、食材や果物を探す。

《会議の様子》

前回の子ども会議とメンバーが若干異なったので、まず自己紹介ゲームを行って会議を始めた。黒板の記録は前回に引き続き子どもたちが担当することになったが、複数人が自発的に立候補し、役割をこなそうとする様子が見られた。

第3回子ども会議

実施日時：2008年11月21日（金） 15:15～16:00

場 所：月が丘小学校2階会議室

参 加：子ども10人、大人2人（計12人）

内 容：

12月6日開催予定の遊びの学校実施に向けた企画・計画作りの検討。どのような遊びをどういう風に行うのかについて会議を行った。

《会議内容》

遊びの内容

- ①『隠れ鬼』『宝探し』②科学実験③肝試しの冬版
- 隠れ鬼と宝探しを合体させたルールで、遊び方を決めた。
- 肝試しは、前回よりもっと怖くしたいという意見があがり、変装したり化粧したり、或いは蛍光灯をカラーにするなどのアイデアが出された。
- 脅かし役を募ったら、子どもの中から数名立候補者が出て、大人と一緒にやることにした。

《会議の様子》

子どもの積極性やアイデアが子ども会議を重ねることに豊富に見られてきた。任せることで、責任と役割分担が自然と出てきて子どもの成長が窺えた。

第4回子ども会議

実施日時：2008年12月19日（金） 13:00～15:00

場 所：月が丘小学校2階会議室

参 加：子ども10人、大人2人

内 容：

1月17日開催予定の遊びの学校実施に向けた企画・計画作りの検討。どのような遊びをどういう風に行うのかについて会議を行った。

《会議内容》

遊びの内容

- ① 冬の運動会（雪上雪合戦など雪を使った遊び）②雪上遊びの後、温かい物を食べて温まる。
- 校庭で雪を使った遊びのメニューと遊び方を決めた。
- リーダー、その他連絡係など役割を決めた。

《会議の様子》

記録の他に、司会進行まで全て子どもたちで行った。まとめ・意見集約に時間がかなりかかり、予定時間を大幅にオーバーしてしまったが、子どもたちには「自分たちの子ども会議」という意識が生まれてきたようである。

宇都宮市立今泉小学校

遊びの広場

地域コーディネーター大門美砂子さん（今泉保育園園長）を中心に、学校・教育委員会・PTA・けやきのもり（地域における青少年の居場所の運営団体）の実行委員が結束して運営に関わった。子どもたちが積極的に意見を出してくれた子ども会議の意見を、実行委員会で十分に検討し、遊びの広場で実現した。その結果は、遊びの広場での子どもたちの目の輝きに反映していた。大人が子どもたちの思いに根気強く付き合うことから実現し、子どもも大人も成長した遊びの広場であった。

第1回「遊びの広場」

－ ハロウィンパーティ －

実施日時：2008年10月29日（水）15：15～16：45

場 所：今泉小学校体育館

参 加：子ども111人 大人15人（計126人）

協力団体：今泉小学校、PTA、けやきのもりサポーター

実施内容：

- 1) 第1回「遊びの広場」にあたっての注意
作りたい物別に、できるだけ縦割り班で、年齢構成がほぼ均等になるようにグループを編成。
- 2) プログラム
①はじめの言葉 ②衣装作り（8グループで活動） ③グループごとに、写真撮影
④遊び（trick or treat） ⑤片付け ⑥おわりの言葉
- 3) アンケートについての指示、下校に関する注意

感 想：

（活動全般）

- 子どもたちは指示をよく聞いて、きまりを守って活動できた。
- 終了後の表情から、活動に対する満足感が見て取れた。
- 「けやきのもり」（地域における青少年の居場所の運営団体）の室内遊びのルールが、遊びの広場のスムーズな運営に活かされていた。

（グループ編成）

- 高学年児童や1年生が同じ班に集まらないように伝えたところ、自発的にグループを変更する様子が見られた。

（衣装作り）

- 各班に大人が一人ずつついて、安全面に関する配慮が行えた。
- 作業のとき、悩んで作り始めない子どもは見られなかった。
近くにいる大人に、アドバイスを求める様子は数多く見られた。
- 約30分という短い時間で、全ての子どもたちが作品を完成させることができた。
- 完成後、学校職員の協力を得ながら、楽しそうに作品を見せ合っていた。

（片付け）

- 多くの子供が、ごみ拾いなどの後片付けを行うことができた。

（下校）

- 全ての児童が、保護者と共に下校をすることができた。



（どんな格好に変身しようかな？）



（恐怖のミイラの誕生だ！）

第2回「遊びの広場」

- ゲーム大会 -

実施日時：2008年11月28日（金）15：15～16：45

場 所：今泉小学校体育館

参 加：子ども119人 大人10人（計129人）

協力団体：今泉小学校、PTA、けやきのもりサポーター、今泉保育園職員

実施内容：

- 出欠の確認と、縦割り班によるグループ編成
（宝さがしは10グループ、他のゲームは2グループを合わせた5グループで実施）
- プログラム
 - ①はじめの言葉 ②いつ だれが どこで 何を どうした ゲーム
 - ③ハンカチ落とし ④だるまさんの一日 ⑤宝さがし
 - ⑥ミッキーマウスダンス ⑦アンケート ⑧おわりの言葉
- 下校に関する注意

感 想：

（活動全般）

- 児童は注意されたことをよく理解し、守っていた。
- 活動助言を行っている大人に声かけをする児童の姿が、多数見られた。2回目ということもあり、慣れてきたようである。
- （ゲームにおいて）
- 児童は、全てのゲームに生き生きと取り組んでいた。
子ども会議において、児童の希望を最優先に考えた結果であると思われる。またゲームに合った音楽が、場の雰囲気盛り上げていた。
- 各班に大人が一人ずつついて、安全面に関する配慮を行った。
- 一つあたりのゲームの時間が適当であった。またゲームの数もちょうど良かった。
- ゲーム中、高学年児童が低学年児童を優先している姿が見られた。
- ミッキーマウスダンスを、今泉保育園の保育士による指導で行った。
多くの子どもは動きの早い難しい動きながらも、楽しそうに体を動かしていた。
- アンケートへの記入が、前回と比べてスムーズにできた。
- （下校）
- 全ての児童が、保護者と共に下校をした。
- 親子で楽しそうに会話をしながら帰宅する子どもが目立った。



（ハンカチ落としゲームにピリリ！）



（だるまさんの一日は疲れるな～！）

第3回「遊びの広場」

- 昔遊び -

実施日時：2008年12月14日（日）10：00～13：30

場 所：体育館前校庭、今泉地域コミュニティセンター（学校隣接）

参 加：子ども96人 大人25人（計121人）

協力団体：今泉小学校、PTA、けやきのもりサポーター、宇都宮市消防第七分団、バンビーニゆめ保育園職員

実施内容：

- 外遊び（今泉小体育館付近） ベーゴマ、餅つき体験と試食会、（予定していた「はないちもんめ」は雨天のため中止）
- 室内遊び（今泉地域コミュニティセンター）
 - ・けん玉製作 ・ベーゴマ ・オセロ ・将棋 ・メンコ ・卓球 ・ジェンガ
- 全員で伝言ゲーム
- アンケート
- 帰宅に関する注意

感 想：

（活動全般）

- 悪天候ではあったが、児童は安全に注意して活動に取り組んでいた。
 - 遊びの中において、上級生が下級生の面倒を見る姿がしばしば見られた。
（ゲームにおいて）
 - 児童は自分の希望する遊びに、積極的に取り組んでいた。
 - 各班に大人が必ずついて、安全面に関する配慮を行うことができた。
 - カルタは学年ごとに実施したところ、児童は通常、一人遊びをすることが多いためか、カルタに慣れていない様子も見られた多くの児童が楽しく参加することができるようになった。
 - ベーゴマの練習に真剣に取り組む児童が数多く見られた。
 - メンコははじめうまくできなかったが、活動助言者の「新聞を敷く」という助言でスムーズな活動を行えるようになった。
 - オセロや将棋では、異学年の児童が対戦している姿を見ることができた。
 - 安全面に注意しながら、けん玉作りに取り組むことができた。児童はできたけん玉を使って嬉しそうに練習をしていた。
- （その他）
- 餅つきを初めて経験する子どもが多かった。また、つきたてのお餅を食べることも今までではなかったようで、喜んで食べていた。



（初めての餅つき）



（伝言ゲームで盛り上がる）

第4回「遊びの広場」

－ 「今泉小学校すごろく」作り －

実施日時：2009年1月28日（水）15：15～16：45

場 所：今泉小学校体育館

参 加：子ども108人 大人9人（計127人）

協力団体：今泉小学校、PTA、けやきのもりサポーター

実施内容：

「今泉小学校すごろく」作り

○出欠の確認と、縦割り班によるグループ編成（23グループで実施、1グループ4名程度）

○プログラム

・はじめの言葉

・「今泉小学校すごろく」を作る際の注意

（1年間の学校行事や季節の催し物に関するもので、グループ毎に模造紙1枚を作成）

・すごろく作り及び完成した作品の発表

・じゃんけん列車（すごろくの制作が予定時間より早く終了したため）

・ふり返し活動（アンケートへの記入）

・おわりの言葉

・下校に関する注意

感 想：

（活動全般）

○児童はグループ内でよく話し合いをしていた。

○多くの子どもが、お互いに協力し合いながら丁寧な作品づくりに心がけている様子であった。

○学校行事に関するものが大多数であるものの、季節等を反映した内容のグループも見受けられた。

○次回の子どもの広場で遊ぶことを考え、楽しい作品を作っていた。

○「じゃんけん列車」では、ほとんどの子どもがルールを守りながら、楽しそうに活動していた。

○アンケートへの記入にも慣れ、短時間で書き終わった。

（下校）

○全ての児童が、保護者と共に下校をした。

○親子で楽しそうに会話をしながら帰宅する子どもが印象的であった。



（すごろくのルールを考える）



（じゃんけん列車の先頭は誰？）

第5回「遊びの広場」

－ 「今泉小学校すごろく」・外遊び －

実施日時：2009年2月25日（水）15：15～16：45

場 所：今泉小学校体育館、校庭

参 加：子ども103人 大人12人（計115人）

協力団体：今泉小学校、PTA、けやきのもりサポーター

実施内容：

○出欠の確認と、縦割り班によるグループ編成

（23グループで実施、1グループ4名程度）

○プログラム

・はじめの言葉

・遊びの際のグループ編成等

（人数が多いため、すごろく・長縄跳び・ドッジボールに8グループごと別れて実施）

・おわりの言葉

・下校に関する注意

感 想：

（活動全般）

○外遊びは悪天候ではあったが、児童は安全に注意して活動に取り組んでいた。

○遊びの中において、上級生が下級生の面倒を見る姿がしばしば見られた。

○児童は自分の希望する遊びに、積極的に取り組んでいた。

○各班に大人が必ずついて、安全面に関する配慮を行うことができた。

○長縄跳びでは、慣れていない子どもが見られた。

○すごろくでは、特に自分達が作製したもので遊んでいるという満足感が大きかったようである。



（自分たちで作ったすごろくで遊ぶ）



（何人はいるか？大縄飛びに挑戦）

第1回子ども会議

実施日時：2008年10月7日（火）16：30～17：00

場 所：今泉地域コミュニティセンター

参 加：子ども21人 大人5人

内 容：

第1回今泉小遊びの広場に向けた「あそび」の内容を検討

《児童からの意見》

- ①校庭等での外遊び（鬼ごっこ・ドッジボール・サッカー・リレー・竹馬・だるまさんがころんだ・どろけい・キャッチボール）
- ②卓球大会 ③囲碁大会 ④おはじき ⑤オセロ大会 ⑥じゃんけん大会 ⑦竹とんぼ
- ⑧宝探し ⑨保育園訪問（保育園児との交流） ⑩こま回し ⑪ベーゴマ大会
- ⑫昔あそび（おてだま・福笑い・だるまおとし・的当て）
- ⑬百人一首・かるた・トランプ ⑭ハンカチおとし ⑮缶ぽっくり
- ⑯科学あそび（空気砲・自由研究） ⑰紙ひこうき ⑱計算大会 ⑲工作
- ⑳ハロウィンパーティー（仮装大会）

《会議での決定事項》

- ◎ 第1回遊びの広場（10/29）で実施する内容は、上記意見のうち、参加児童から最も人気の高かった「⑳ハロウィンパーティー」に決定した。

※「ハロウィンパーティー」について、参加児童の大多数が、仮装大会というイメージが強い様子である。今後は、児童の意向を踏まえた実施内容となるよう、実行委員会等において調整を行うことにした。

第2回子ども会議

実施日時：2008年11月11日（火）16：30～17：00

場 所：今泉地域コミュニティセンター

参 加：子ども16人 大人6人

内 容：

第2回今泉小遊びの広場に向けた「ゲーム大会」の内容を検討
（5年生の児童2名が司会進行）

《児童からの意見》

- | | |
|-----------------|-------------|
| ① 妖精と魔女 | ⑪ 縄跳び（大縄跳び） |
| ② 宝さがし | ⑫ 増えおに |
| ③ いつ どこで だれがゲーム | ⑬ 色おに |
| ④ ハンカチ落とし | ⑭ だるまさんが転んだ |
| ⑤ だるまさんの1日 | ⑮ 形おに |
| ⑥ 中線ふみ | |

《会議での決定事項》

- ◎ 児童の希望について話し合いをした上で、多数決で決定することとした。その結果、「宝さがし」「いつ、どこで、だれがゲーム」「ハンカチ落とし」「だるまさんの1日」「妖精と魔女」「中線ふみ」が上位を占めた。「ゲーム大会」は、実施場所の状況及び時間、低学年から高学年まで楽しく遊べる内容であること等を勘案し、希望者の多い順に4～5種類の遊びを組み合わせることで実施することとなった。
（第3回実行委員会で詳細検討）

第3回子ども会議

実施日時：2008年12月2日（火）16:30～17:00

場 所：今泉地域コミュニティセンター

参 加：子ども18人 大人6人

内 容：

第3回今泉小遊びの広場に向けた「昔あそび」の内容を検討
(5年生の児童2名が司会進行)

《児童からの意見》

- | | | | | |
|----------|----------|------------|--------|----------|
| ①カルタ | ②けん玉 | ③メンコ | ④ベーゴマ | ⑤オセロ |
| ⑥卓球 | ⑦はないちもんめ | ⑧こままわし | ⑨福わらい | ⑩フーフーゲーム |
| ⑪まわし絵ゲーム | ⑫かごめかごめ | ⑬だるまさんが転んだ | ⑭紙でっぽう | |
| ⑮お手玉 | ⑯あやとり | ⑰だるまおとし | ⑱おはじき | |

《会議での決定事項》

◎児童の希望について話し合いをした上で、優先順位をつけることとした。

その結果、「カルタ」「けん玉」「メンコ」「ベーゴマ」「オセロ」「卓球」「はないちもんめ」が上位を占めた。

「昔あそび」は、実施場所の状況及び時間、低学年から高学年まで楽しく遊べ内容であること等を勘案し、希望者の多いもの数種類の遊びを組み合わせる実施することとなった。

(第4回実行委員会で詳細検討)

○第3回遊びの広場のポスターを制作し、校内に展示をする。

○登下校に注意する。(家の人と来て、家の人と帰るようにする)

○第3回遊びの広場の持ち物・・・ハンカチ、上履き

○今後の予定

12月8日(月)10:30～ 第4回実行委員会(実施手法や準備事項等について検討)

12月14日(日)10:00～13:00 第3回遊びの広場

※ もちつき終了後、遊びの広場を実施する



(どんどん出てくる意見を大人が記録する)

第4回子ども会議

実施日時：2009年1月13日（火）16：30～17：00

場 所：今泉地域コミュニティセンター

参 加：子ども17人 大人6人

内 容：

第4回今泉小遊びの広場に向けた「お楽しみ会」の内容を検討
(5年生の児童2名が司会進行)

《児童からの意見》

①今泉カルタ ②すごろく ③ジェンガ ④ビンゴ ⑤おばけやしき ⑥ルーレット

《会議での決定事項》

- 児童の話し合いから、「今泉小学校すごろく」に決定した。
多く的人数で遊べるように、大きなすごろくを作製することになった。
次回の遊びの広場で作ったものを、2月の遊びの広場で遊ぶ。
- 1 グループ縦割りの3～4名となるようくじでグループを決め、駒ごとのルールや内容を話し合いながら協力して作製する。
- 第4回遊びの広場のポスターを子ども会議に出席した子どもが各自制作し、校内に展示をする。
- 登下校に注意する。(家の人と来て、家の人と帰るようにする) ※参加児童の安全確保
- 第4回遊びの広場は、今泉小体育館で実施する。
(第5回実行委員会で詳細検討)
- 今後の予定
1月16日(金)10:30～ 第5回実行委員会(実施手法や準備事項等について検討)
1月28日(水)15:15～16:45 第4回遊びの広場



(どんなルールを決めようか?)



(外はすっかり暗くなった)

第5回子ども会議

実施日時：2009年2月3日（火）16:30～17:00

場 所：今泉地域コミュニティセンター

参 加：子ども18人 大人6人

内 容：

第5回今泉小遊びの広場に向けた「今泉小学校すごろく・外遊び」の内容を検討

※「今泉小学校すごろく」の実施は既に決定しているため、今回は、外遊びの内容を中心に検討した。（5年生の児童2名が司会進行）

《児童からの意見》

- ①ドッジボール ②ハンター ③どろけい ④だるまさんの1日 ⑤かんけり
- ⑥大縄跳び ⑦ひっこしドッジ ⑧サッカー

《会議での決定・確認事項》

- 児童の話し合いから、外遊びの内容は「ドッジボール」「どろけい」「大縄跳び」「かんけり」に決定した。
- 「今泉小学校すごろく」は、第4回今泉小遊びの広場で決めたグループによる対抗戦とする。
- 第5回遊びの広場のポスターを子ども会議に出席した子どもが各自制作し、校内に展示をする。
- 下校の際、保護者の迎え確認 ※参加児童の安全確保
- 第5回遊びの広場は、今泉小体育館と校庭で実施する。

（第6回実行委員会で詳細検討）

○今後の予定

2月5日（月）10:30～ 第6回実行委員会（実施手法や準備事項等について検討）

2月25日（水）15:15～ 第5回遊びの広場

2月27日（水）10:30～ 第7回実行委員会



（みんなの意見は決まりましたか？）



（楽しいアイデアがどんどん湧いてくる）

長野市立下氷鉤小学校

遊びの広場

地域コーディネーター田口和男さん（同小学校PTA会長）を中心に、学校・PTA・同小学校祖父母の会が実行委員として運営に関わった。6年の学級委員と5年の生徒会長候補が子ども会議のメンバーとなり、単なる遊びの枠を超え、地域に前向きに関わるアイデアを提案、「遊びの広場」で2つの核となるイベントを実施した。支援した大人たちも子どもたちの意欲的な活動に刺激され、地域でのこうした取り組みの重要性を再認識していた。子どもたちの思いと地域の思いとが見事に調和した感動的なイベントとなった。

第1回「遊びの広場」

－ 桜の枝を加工して祖父母の会の皆さんにプレゼントしよう －

実施日時：2009年1月22日（木）15：10～16：30

場 所：下氷鮑小学校 図工室

参 加：子ども18人 大人15人（計33人）

協力団体：下氷鮑小学校、PTA、祖父母の会、地域住民有志

実施内容：

- ・校舎増築に伴い伐採された桜の木を記念に残る形にして、いつもお世話になっている祖父母の会の皆さんにプレゼントしたい。（祖父母の会の会員・・・41名）
- ・遊ぶ時間は授業参観日の放課後とし、なるべく多くの子どもの参加を募る。
- ・遊びの内容は、学校からいただいた桜の木の枝の輪切りをサンドペーパーで磨いて仕上げ、校章の焼印を押す。子どもたちだけでなく地域のおじいちゃん、おばあちゃんにも協力してもらおう。

焼印には火を使うので、低学年には不向きと判断し対象学年は3学年とした。

感 想：

- ・当初子どもたちは若干戸惑いがちであったが、今回用意された桜の枝の由来の説明を聞き、また遊びの結果が祖父母の会会員へのプレゼントであるということを知り、やる気を感じていた。
- ・サンドペーパーを使い木材を加工した経験のある子どもはほとんどおらず、その作業結果（切断面が徐々に滑らかに変化していくこと）に驚き興味をもち始めた様子はとても新鮮に感じた。
- ・さらに焼印を押した経験のある子どもは皆無であり、自分の行った作業で素材が変化していくことに大きな発見を感じていたようである。
- ・地域の方々も“おっかなびっくり”な様子であったが、徐々に子どもたちとの距離も近づいてゆき、集中するあまりお互いに真剣なまなざしではあったが、非常に親密な時間を過ごしていたようであった。
- ・遊びが終わったあと、地域の皆さんから子どもたちに昔の学校や町の様子が語られていた。切られてしまった木の枝が世代を超えた地域の橋渡し役を果たし、新しい地域交流の誕生を感じさせた。

終了後地域の皆さんから、また何でも良いから子どもたちと同じ時間を過ごせるような機会を設けて欲しいとリクエストをいただいた。



（桜の木の思い出を残そう）



（桜の木に慎重に焼き印を押す）

第2回「遊びの広場」

「ごみ箱づくり」 (ごみ箱を作って私たちの町を美しくしたい)

実施日時：2009年2月22日(日) 13:00～16:00

場 所：下氷鮑小学校 第一体育館

参 加：子ども16人 大人24人(計40人)

協力団体：下氷鮑小学校、PTA、祖父母の会、鮑会(おやじの会)、
小山木材株式会社

実施内容：

- ・木材を使いゴミ箱を作る。遊びの時間の関係によりデザインは同一とし、予め部材を組み立てられるよう準備しておく。(幅450mm×高さ最大700mm×奥行300mm)
- ・完成したゴミ箱には自由に絵を描いて仕上げる。
- ・乾燥後ラッカー塗装を行い、通学区内の公共施設や商業施設等に寄贈する(6箇所)。実際に使ってもらい、その結果町がきれいになっていることを実感する。

※当初午前の実施予定であったが、会場使用の関係で学校から依頼があり、第3回と同時開催となった。

感 想：

- ・木工の実技指導には現職の大工さんに協力をお願いした。子どもたちも開始前から興味津々の様子であり、大工さんには様々な質問が寄せられていた。予想外のところでも交流が行われていた。
- ・完成サイズは70ℓのゴミ袋がセットできる大きさであり、小学生が組み立てるにはやや大きいかとも思われたが祖父母の会会員や保護者のサポートを得て作業は進んだ。
- ・組み立てには釘を使い自分たちで打ってみた。曲がってしまったものもあったが何とかできた。
- ・6年生または5年生をリーダーとして6グループで行った。女子児童も5人いたがリーダー役の上級生はメンバーの役割分担を進んでやってくれて、することがなくてあふれてしまう子どもはいなかった。
- ・寄贈後に使う方の安全を考えようとの発案で、組み立て後はやすりで角を滑らかに仕上げた。1年生から“何でこんなことするの?”という質問に大工さんや祖父母の会の方が真剣にその目的を説明していた姿が印象的であった。

組み立て時間が予想よりもかかってしまったため、絵を描く時間が短くなってしまったのは残念であったが、何とか予定時間で完成することができた。



(1、2、・・・合計8本の手が支え)



(地域のスーパーや郵便局に提供決定)

第3回「遊びの広場」

－ 町を美しくしようというメッセージをこめた絵を描いて町に飾る －

実施日時：2009年2月22日（日）13:00～15:30

場 所：下氷鮑小学校 第一体育館

参 加：子ども18人 大人27人（計45人）

協力団体：下氷鮑小学校・PTA・祖父母の会・鮑会

実施内容：

- ・ベニヤ板（1800mm×900mm）を3枚つなぎ合わせて「遊びのキャンバス」をつくり、そこにメッセージをこめた絵を描いた。メッセージは「私たちの住む町をいつまでも美しくしたい」。
- ・描く場所を個人に割り振るなどの制限は一切設けず子どもたちの自由とした。
- ・乾燥後ラッカー塗装を行い、地区内に展示を行う。（スタート時は子どもたちの通学路である国道の横断地下道の壁面を予定。）

感 想：

- ・下氷鮑小学校の岸田先生のリードで始まったが、スタート直後におとなのサポートが不要となるほど子どもたちの反応は良かった。通常学校の授業や自宅でも描くことのないサイズではあったが、それがかえって子どもたちの創造意欲をかきたてたのかもしれない。
- ・上級生が下級生に描きやすい場所を譲ったり絵の具を用意したりしており、学年を超えた交流ができていた。1年生2年生の参加が約半数であったが、のびのびとそして笑顔で遊びの時間を過ごしていた。
- ・“キャンバス”に乗らないと最後まで絵が描けないことに気づいた子どもたちは、着衣や靴下も絵の具だらけになって描いていたが、周りで見ている親たちは子どもたちの真剣で楽しそうな様子に特に怒る風でもなかった。

親からは、もっと大きな板を用意して欲しかったと意見があった。子どもたちもまだまだ描き足りなかったようで、またやりたいという子どもが何人もいた。機会があれば今後も同様の形で継続できるとさらに「遊び」が広がるのではと思われる。



（みんな自由に描きたい絵を描く）



（空を泳ぐ白い鯨にみんなで乗って）

第4回「遊びの広場」

－「桜の植樹」(切られてしまった桜の木をもう一度よみがえらせた)－

実施日時：2009年2月28日(土) 13:00～14:45

場 所：下氷鉤小学校 校庭

参 加：子ども42人 大人38人(計80人)

協力団体：下氷鉤小学校、PTA・祖父母の会・鉤会・株式会社佐藤園芸

実施内容：

- ・校舎増築に伴う道路拡張で伐採されてしまった桜の木を自分たちで植えて、また花を咲かせたい。
- ・何年か後、花が咲くようになったらその桜の木の下で地域の方々とお花見をしたい。植樹した桜の苗木に添え木として杭を立てるが、その杭に木を植えた証拠に自分の名前を書いてしまおう。

感 想：

- ・植樹の実技指導には、造園会社の協力をいただいた。
- ・穴(直径40～50cm、深さ50cm)を掘り、添え木としての杭を打ち込むが杭打ちは力のある工程なので祖父母の会や保護者に協力をいただいた。穴に培養土を入れ苗木を植え、最後は苗木を保護するために腐葉土で根元を覆い完成。腐葉土は学校にあるものをいただいたが、一輪車を使って校庭の端まで取りに行くなどほとんど自分たちでできたことの喜びと充実感で笑顔があふれていた。最後に杭にメンバー全員で名前を書いた。思わず自分の名前を書いてしまった保護者もいたが、それもよしとした。
- ・2～3年度の開花見込みだそうである。6年生から、卒業しても見に来てもいいのかと尋ねられたが、「もちろんだよ、いつまでも見守って欲しい」と返答した。
- ・子ども会議でも、「命あるものはいつかなくなってしまうのは仕方ないけれどそれをまた自分たちで始めることもできる」との発言があった。自然を守り、命を守り、そして地域のつながりを守ることの大切さを、課外の時間を使って子どもたちが協力して成し遂げ、その意識を共有できたことはとても意義深かったと感じている。



(桜の植樹の仕方について話を聞く)



(大きく育て！みんなの心をこめて植樹)

第1回子ども会議

実施日時：2009年1月16日（金）16:00～17:10

場所：下氷鉤小学校会議室

参加：子ども9人（6年生6名 5年生3名） 大人8人

内容：

《児童からの意見》

- ・地域コーディネーター田口氏より、子どもに対し「遊びの広場」の概要と「子ども会議」の趣旨説明。
- ・さわやか福祉財団 安部氏より「遊びの広場」事業の背景とその狙いを説明。子どもたちの企画立案によるイベントや活動の実践を呼びかけた。
- ・参加者全員による自己紹介。
- ・「子ども会議」冒頭では島田教諭がリードしてスタートするも、会議途中より子どもたちだけで意見発表や意見交換を積極的に行う。

※「子ども会議」で発言のあった主な意見・アイデア

【桜の木の植樹】

- ・（地域コーディネーターの説明を受けて）学校の校庭の桜の木がなくなってしまい寂しい。桜の木の植樹を是非やりたい。
- ・桜だけでなく、四季を感じられるような樹木（例えば銀杏）を植えてはどうか？

【地域交流】

- ・学校の校庭を使って、地域のいろいろな人たちと交流できるイベントをやりたい。
- ・地域の人と一緒にゴミ拾いはどうか？
- ・お祭りもいい。

【ゴミ箱づくり・環境美化活動】

- ・公園に吸殻やゴミが多い。ゴミ箱を作ってはどうか？
- ・国道の横断地下道が殺風景でゴミが多い。地下道の中に設置するのは？
- ・分別できるように複数製作したほうがよい。

【公園の整備】

- ・水遊びのできる公園にしたい。
- ・ベンチをたくさん置いてくつろげる公園にしたい。
- ・アスレチックパークのようなものが欲しい。

現在の公園のまま、花や木を植えるなどしてレベルアップしてはどうか。

【桜の枝の加工】

- ・（学校からの提案を受けて）校舎増築に伴い伐採された桜の木の枝を輪切りにしたものがいくつかある。それを加工して遊ぶことはできないか？
- ・どんな加工ができるか？
- ・（実行委員より）桜の木は硬い。切る、削る、磨くは技術と慣れが必要と思われるので、あまり高度な内容は難しいかもしれないが検討してみる。⇒次回までに数量等を含め確認を行うこととした。

※本日中にまとめることができなくなるほど大変活発に意見が出された。よって「第2回子ども会議」を1月20日（火）に開催することとした。



（さあ、楽しい遊びを考えよう）

第2回子ども会議

実施日時：2009年1月20日（火）16:00～17:20

場 所：下氷鉦小学校会議室

参 加：子ども8人（6年生5名 5年生3名） 大人10人

内 容：

地域コーディネーター田口氏より、前回第1回子ども会議で出た様々な意見について自分たちで実現可能なものを本日決定したい旨説明。

- ・早速子どもたちによる子ども会議へ移行。

《児童からの意見》

【ゴミ箱づくり・環境美化活動】

- ・各自でゴミ箱を作り公園に設置したい。⇒公園の管理者である長野市緑地課に確認。公園全般としてゴミ箱の設置は行っていない。ゴミ箱設置についてはイベント的な使用方法に限られるか？
- ・国道の横断地下道に賑わいを演出するため、絵を描いて飾りたい。⇒国道工事事務所に確認を行う。
- ・いずれの場合も、ゴミ拾いを合わせて行いたい。

【桜の木の植樹】

- ・桜の木は植樹することで決定。
- ・植樹場所については、小学校校庭と地域の公園としたい。

※第1回子ども会議で出された【桜の枝を加工してみよう】については、材料の数量が少なく（約60個）、またすでに児童ひとりにひとつずつ配布され加工を始めているクラスもあるため全校募集をかけての遊びとはできないと思われる。その代案として地域コーディネーターから、授業参観日の放課後の時間を使い記念品となるような加工をし、日頃お世話になっている祖父母の会の皆さんにプレゼントしてみてもどうかと提案があり、子ども会議で意見を聞いた結果、低学年を対象として実行してみようとなった。実施日は1月22日の低学年授業参観日、15時より約1時間、参加者は当日募集し対象学年は3年生と決定した。遊びの内容は、枝の輪切りの切断面をサンドペーパーできれいに磨き、最後に下氷鉦小学校の校章の焼印を押して仕上げる。祖父母の会会員は現在41名であり、会員を対象としてプレゼントするうえで数量が不足することはなさそうである。

※第1回子ども会議で出された意見項目のうち、【公園の整備】【地域交流】については事業規模および内容の水準の観点から、仮に親や地域の方々のサポートがあっても子どもたちによる実現は困難であろうとの意見により、今回については対象外となった。年度が替わった段階で改めて実施について協議を行いたいと考える。

※実行委員会を開催し、具体的活動内容・スケジュール等について最終決定することとした。



(ゴミ箱のイメージを書こう)



(出てきたアイデアを検討しよう)

松江市立古志原小学校

遊びの広場（放課後わくわく遊び）

この遊びの広場では、地域の公民館に積極的な協力をいただいた。実行委員の中に地域の公民館長をお願いしたことで、生涯学習に参加する地域の方々の協力をいただいたり、放課後子ども教室のスタッフの方の協力をいただいたり、子どもたちに近い年齢の中学生や高校生の参加、そして、隣接する工業高校とのコラボも実現して、参加した子どもたちの思いを十分に実現させることができた遊びの広場であった。

第1回「遊びの広場」 (放課後わくわく遊び) - 「こしばらっ子祭り」のゲームコーナーに参加しよう-

実施日時：2008年11月2日(日) 9:30~14:30

場 所：古志原小学校校庭

参 加：子ども37人 大人6人(計43人)

協力団体：古志原小学校、PTA、古志原公民館

実施内容：

- ペットボトルボーリング
 - ピンポン玉バスケット
 - ふうせんバレー
- 全て子どもたちの手作りゲーム。

感 想：

- ペットボトルボーリング
ペットボトルに絵を描き、水で重くしてピンを作った。ピンの倒れ方の調整を工夫した。ストライクを出した子どもは大はしゃぎだった。
- ピンポン玉バスケット
一番人気だった。ダンボールの上にペットボトルを輪切りにしてゴールを作り、ピンポン玉を投げてゴールに入れ合計得点を出した。ゲーム1回にピンポン玉3個で、いっぺんに投げる子や一つずつ投げる子など様々だった。なかなか入らないので夢中になる子どもたちが多くみられた。
- ふうせんバレー
風が強くて思う方向にふうせんが飛んでいかなかった。一人ではなく、多数の友達と協力してプレイができることから、みんな楽しく遊んでいた。
- 全体として
ゲームを考えた子どもたちが、他の遊びにきた子どもたちに、ルールを説明して、ゲームをしていた。異年齢で多数参加があり、楽しそうだった。



(ねらいを定めて、えい！ストライク！)



(風に流されて打ちにくいなあ)

第2回「遊びの広場」 (放課後わくわく遊び)

- クリスマスを楽しもう -

実施日時：2008年12月24日(水) 13:00~16:30

場 所：古志原小学校家庭科室

参 加：子ども36人 大人6人(計42人)

協力団体：古志原小学校、PTA、古志原公民館

実施内容：

☆サンタの帽子作り

- ☆スタンプラリー
 - ・ペットボトルダーツ
 - ・まちがいさがし
 - ・本物のサンタをさがせ
 - ・ツリーの飾り作り

☆みんなで歌おう「あわてんぼうのサンタクロース」

感 想：

☆子ども会議に参加した子どもたちが中心になり、楽しそうに準備をしていた。

☆司会やゲームコーナーの担当も子どもたちで積極的に行ない、スムーズに会が進んだ。

☆スタッフのサンタクロースにも大喜びしてもらい、良かった。

☆クリスマス・イブの当日で、あちらこちらのイベントと重なり、予定人数より少なく残念だったが、それぞれの子どもたちが満足してくれて良かったと思う。

☆「あわてんぼうのサンタクロース」の歌では、ビックリする程の大きな歌声で、一緒に歌っていて気持ち良かった。

☆サンタを捜すときには、子どもたちも本気になり、おもいきり走り回って楽しそうだった。



(サンタの帽子はどんな形?)



(みんな完成。後はプレゼントを待つだけ)

第3回「遊びの広場」 (放課後わくわく遊び)

- しめ縄・わらを使って物作り -

実施日時：2008年12月25日(水) 14:00～16:00

場 所：古志原公民館

参 加：子ども25人 大人21人(計46人)

協力団体：古志原小学校、PTA、古志原公民館、古志原ボランティアの会

実施内容：

わらを使って、しめ縄や長縄をつくり、縄跳びをして遊んだ。

感 想：

☆見本のしめ縄を見ながら、必死になり編んでいる親子の姿がみられた。

☆ボランティアの会の大人の方に丁寧に教えて貰い、小さいながらもしめ縄が出来て喜んでいた。

☆長縄で縄跳びをして遊んだ。(雨のため、屋内で行う。)

☆わらで作る事がおもしろかったと子どもたちは喜んでいました。



(縄ないの達人の腕にみんなびっくり)



(長縄が完成。大縄飛びが待ち遠しい)

第4回「遊びの広場」(放課後わくわく遊び)

- 体育館で思いっきり遊ぼう -

実施日時：2009年2月9日(日) 15:00~17:00

場 所：古志原小学校体育館

参 加：子ども89人 大人16人(計105人)

協力団体：古志原小学校、PTA、古志原公民館、古志原小放課後子ども教室ボランティア、
島根県立松江農林高等学校生徒、松江市立第四中学校生徒

実施内容：

☆もりくまゲーム(ジャンケンれっしゃ)

☆ドッジボール

☆大なわとび・なわとび

☆おにごっこ

感 想：

☆放課後の体育館が使えることで、子どもたちは楽しみに来てくれた。

☆もりくまゲームで、体が温まり 全体がまとまってスタートできて良かった。

☆ドッジボールが人気があり、白熱したゲームが行なわれた。

☆ドッジボールをするには、ゲーム一回の人数が多すぎて、ボールに触れない子がいたの
で人数調整が必要だった。

☆大なわとびや、なわとびは、大人と一緒に跳べて楽しかったという子どもたちの感想が
あった。

☆おにごっこは、はちまきを使い、しっぽとりおにごっこをして、子どもも大人も汗をか
いて逃げ回り盛り上がっていた。

☆高学年が多数参加して、低学年をもっとリードして欲しい。

☆中学生や高校生ボランティアが、子どもと遊んでくれ活躍してくれた。

☆もう少し時間があれば、子どもたちがどのコーナーでも遊べたのではないかと思う。



(もりくまゲームで一体感が生まれた)



(みんな一緒に大縄ジャンプ!)

第5回「遊びの広場」 (放課後わくわく遊び)

- ホバークラフトを作ろう -

実施日時：2009年2月16日(水) 15:00~17:00

場 所：古志原小学校家庭科室

参 加：子ども49人 大人11人(計60人)

協力団体：古志原小学校、PTA、古志原公民館、島根県立松江工業高等学校教員・生徒、
島根県立松江農林高等学校生徒

実施内容：

工業高校の生徒と一緒に「ホバークラフト」を作ろう

感 想：

☆工業高校の生徒さんが遅れたため、先生の説明で始まった。

☆途中から生徒たちが来て、小学生に上手に説明をしてくれながら作ることができた。

☆カッターナイフを使うところがあったが、上級生が下級生に教えながらの場面があった。

☆今回も工業高校の生徒たち以外にも、農林高校の生徒がボランティアで来てくれて、子どもたちの手伝いをしてくれた。

☆作るのに多少時間が掛かったが、電池で動くホバーで楽しそうに遊んでいた。

☆今回が最終回だったが、また続けて欲しいと願う子どもたちが多くいて、大変嬉しかった。

☆友だちを通じて、広場を楽しみにして遊びにきてくれる子どもたちが増えていた。



(カッターナイフを持つ手が緊張する)



(滑るようにホバークラフトが走った)

第1回子ども会議（『放課後わくわく遊び』の会）

実施日時：2008年10月20日（月）16:00～17:00

場 所：古志原公民館

参 加：子ども10人 大人6人（計16人）

内 容：

☆子どもたちで『放課後わくわく遊び』の会と名前をつける。

☆放課後の遊びで何がしたいか協議した。

- ・ゲーム（手作りのもの）・ドッジボール・けいどろ・ぬいぐるみ作り・工作
- ・縄跳び・クリスマスイベント・高齢者や地域人との交流・昔遊びなどをやりたいという意見がでた。

☆早速、第1回『放課後わくわく遊び』で何をするか話し合った。

- ・小学校のお祭りでゲームコーナーをすることになった。
 - ・ペットボトルボーリング
 - ・ピンポン玉バスケット
 - ・ふうせんバレー

すべて手作りで行うことに決定した。

- ・ルールを決め、手作りするには何が必要か考えた。
- ・材料を持ち寄り、事前準備をすることになった。

☆ その他、工作については実行委員である工業高校の先生から、ホバークラフトづくりの提案があり、決定。高齢者や地域の人との交流・昔遊びは縄をなうことのできる高齢の名人の人たちに来てもらって、長い縄を作って縄跳びなどをすることになった。全ての遊びの実現は難しいが、できるだけ実現するために、体育館を使っていろんな遊びに挑戦することや、クリスマスイベントは何をするかなどを話し合った。

☆ 子ども会議では、子どもたちの意見が多く出されて、子どもたちが自分たちのやりたいことがいっぱいあることに気づかされた。



（大人は黙って記録をとる）



（まとめた意見を確認）

第2回子ども会議（『放課後わくわく遊び』の会）

実施日時：2008年12月1日（月）15：30～17：00

場 所：古志原公民館

参 加：子ども11人 大人5人 （計16人）

内 容：

☆子供たちの司会により、第2回放課後遊びの内容を決めた。たくさんの意見が出て、とても盛り上がった話し合いだった。そして、次の様に決まり、当日に向けて意欲を湧かしていた。

☆「クリスマスを楽しもう」

1, サンタの帽子作り

2, スタンプラリー（・ペットボトルダーツ・まちがい探し・本物のサンタをさがせ・ツリーのかざり作り・みんなで歌おうあわてんぼうのサンタクロース）

☆ツリーは、色画用紙をもみの木の形に切り、ダンボールに貼る。

☆当日は、子供たちで司会を担当する。

☆みんなに配るプログラムのチラシも子どもたちで作る。

☆準備は、当日早く来て行う。

☆次回以降のわくわく遊びについても協議する。体育館での遊びは、ドッジボール、縄跳び、おにごっこなどに決まる。その他、縄ないは地域の人が協力してくれることやホパークラフトの準備状況などを報告する。



（子どもたちは真剣そのもの）



（どんな準備が必要か考える）

阿南市立平島小学校

遊びの広場

地域コーディネーター常見裕之さん（平島小PTA）を中心に、学校やPTA、学童保育や公民館など地域の人が実行委員として協力し、遊びの広場を行った。
異学年の子どもと一緒に遊ぶことで思いやりの心を学び、また創造的な遊びをすることで子どもの想像力、集中力など子どもの力を引き出すことができた。
また保護者も異年齢で混ざり合っただの遊びなど必要性を感じており、こうした場が継続することが求められる。

第1回「遊びの広場」

実施日時：2008年10月25日（土）14:00～16:00

場 所：平島小学校体育館

参 加：子ども30人 大人7人（計37人）

協力団体：平島小学校、PTA、子どもの笑顔応援団「黒子の会」、中学生

実施内容：

バスケットボール、ボール鬼、ドッジボール、フットサル、フライングディスク、バドミントン、ビーチボール、トランポリン、ジグソーパズル、粘土あそび、おかいものごっこ、けんだま、だるまおとし、竹とんぼなど。

子ども会議で出し合ったやりたいことを一つずつ、この指とまれ方式で行った。

感 想：

- 中学生が来ていたため、フットサルやドッジボールの組み分けをリードしてくれて、スムーズに進行できていた。
- 安全な空間で思いっきりやりたいことができるというのは、ストレス解消にもなると感じた。



(楽しく遊びに興じる子どもたち)



(みんなでドッジボール！)

第2回「遊びの広場」

実施日時：2008年11月1日（土）14:00～16:00

場 所：平島小学校体育館

参 加：子ども35人 大人18人（計53人）

協力団体：平島小学校、PTA、子どもの笑顔応援団「黒子の会」、学童保育クラブ、
徳島県青年海外協力協会、日本国際協力センター、中学生

実施内容：

- 1) 昔遊びやちょんがけこまの名人「かっぱのげんさん・かっぱこさん」を招き、ちょんがけこまはもちろん、皿回しや南京玉すだれ、和太鼓などを実演してもらった。その後、実際に太鼓や皿回しなどの昔遊びを体験した。
- 2) 東アジア青少年大交流計画（外務・文科・総務省合同の事業で、東南アジアの教師や高校生が来日し、日本の中高生と交流するというもの）の一環で徳島に来ていた東南アジアの教師・高校生も今回参加し、子どもたちと一緒に日本の遊びを体験した。
- 3) 後半はバスケットボール、ドッジボール、バドミントン、ジグソーパズル、粘土遊び、おかいものごっこなど、好きな遊びをそれぞれ行った。

感 想：

- こまや皿回しなど、見慣れない遊びに子どもたちは興味津々の様子だった。
- 今回も中学生が来ていたため、前回同様ドッジボール等をするグループをまとめたのがよかった。
- 参加した保護者からは、こうしたいろいろな学年の子どもと一緒に遊べる場があるとありがたいといった声や、今まで知らなかった子ども友達になれてよかったという声によせられた。



（ちょんがけこまの実演タイム）



（皿回しに意外と夢中！？）

第3回「遊びの広場」

実施日時：2009年2月28日（土）13:00～16:00

会場：阿南市科学センター

参加：子ども21人 大人8人（計29人）

協力団体：平島小学校、PTA、阿南市科学センター、子どもの笑顔応援団「黒子の会」
中学生

実施内容：

- 1) ダンボール箱を使った基地づくり、家づくり。
- 2) 割りばしでっぼう（鉄砲）づくりと的当てゲーム。

感想：

- 阿南市科学センターのエントランスホール奥を借り、明るい気持ちの良い空間でそれぞれが思い思いの基地や家を作って、熱中していた。自由に制限なくのびのびと作り作り、達成感も味わえ、満足度も高かったようだ。
- 生涯学習課の方も参加してくださり、今後協力してほしいとの依頼を受けた。
- 保護者も一緒に参加し、また子どもたちの生き生きした表情が印象的だった。



（お互いに協力し合って）



（ステキなお家を作りました）

第4回「遊びの広場」

実施日時：2009年3月1日（日）10:00～15:00

会場：阿南市科学センター

参加：子ども15人 大人10人（計25人）

協力団体：平島小学校、PTA、阿南市科学センター、子どもの笑顔応援団「黒子の会」、中学生

実施内容：

- 1) ダンボール箱を使った基地づくり、家づくり。
- 2) 割りばしでっぼうづくりとそれを使ったゴム合戦。
- 3) みんなが作ったダンボールの家を使った宝探しゲーム。

感想：

- 前日と同様に、阿南市科学センターのエントランスホール奥を借り、前日参加していない人は基地や家づくりを行った。
すでに基地を作った参加者は、迷路づくりをしたり、講師が作った新聞紙のプールで遊んでいた。
- 日頃、利用者が少なく静まりかえっている科学センターに子どもの歓声が戻り、センターの方々も喜んでくださっていた。
- ゲーム世代の子どもたちに興味をもってもらえるのだろうかという不安も感じていたゴム合戦や宝探しゲームも、一生懸命に取り組んで参加してくれたのは意外であった。
- ほっとらかしにしているとゲームをしがちであるが、今の子どもたちも、集団遊びや自由な工作など、潜在的には欲しているのを感じた。残念ながら参加者は少なかったが、参加者の満足度は非常に高かった。



(迷路のような基地)



(割りばしでっぼうづくり)

第1回子ども会議

実施日時：2008年9月26日（金）15:00～17:00

場 所：平島小学校会議室

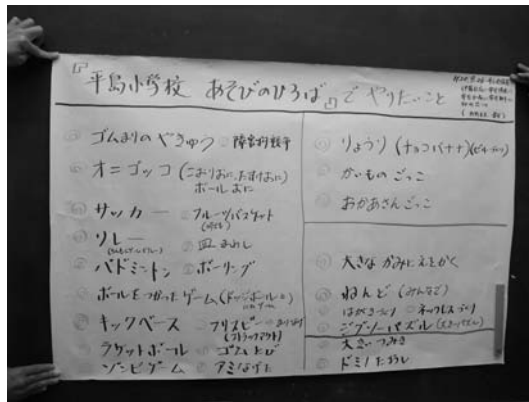
参 加：子ども5人 大人2人（計7人）

内 容：

遊びの広場の説明をした後、広場でやりたいことをそれぞれ出してもらった。A4の紙とマーカーを各自に渡し、いつもしている遊びを左側に、遊びの広場でしたい遊びを右側に書いてもらい、発表してもらった。

挙げられた遊びは以下のとおり。

- ・ごむまりの野球
- ・リレー
- ・ラケットボール
- ・皿回し
- ・ゴムとび
- ・大きな紙に絵を描く
- ・ネックレス作り
- ・鬼ごっこ（氷鬼、助け鬼、ボール鬼）
- ・バドミントン
- ・ゾンビゲーム
- ・ボウリング
- ・料理
- ・ジグソーパズル
- ・ドッジボール
- ・障害物競走
- ・フリスビー
- ・買い物ごっこ
- ・粘土あそび
- ・大きい積み木
- ・サッカー（フットサル）
- ・キックベース
- ・フルーツバスケット
- ・まりなげ
- ・おかあさんごっこ
- ・はがき作り
- ・ドミノ倒し



（やりたいことがたくさん！）

第2回子ども会議

実施日時：2008年10月25日（土）16：45～17：00

場 所：平島小学校体育館

参 加：子ども22人 大人5人

内 容：

第1回遊びの広場の最後に集ってもらい、感想と次回やりたいことを発表してもらった。前回の子どもの会議で挙げられた遊びをまとめた模造紙を見ながら、さらに付け加えたいことを挙げてもらったが、キックベースやバスケットボールなど、前回と似たような遊びが出てきた。

今回は東アジア青少年大交流計画の一環で東南アジアの教師・学生が徳島に来るので、遊びの広場にも参加することを伝えたが、楽しみにしているようだった。

第3回子ども会議

実施日時：2009年1月23日（金）16：00～17：20

場 所：平島小学校会議室

参 加：子ども4人 大人2人

内 容：

今後の遊びの広場の内容について、これまで広場でしたことのないもの、普段ではなかなかできないもの、想像力をはたらかせていろいろ考えられるものを出してもらった。結果、次のことを行うことになった。

- ◇ 段ボール箱を使っての家づくり、迷路づくり、ロボットづくり
- ◇ 輪ゴム銃を作って輪ゴム合戦、的当てゲーム
- ◇ 迷路や家を使っての宝探しゲーム

せっかく作ったものを1日で壊すのはもったいないということで、2日間連続で行うことにし、2月28日と3月1日の土日で提案された遊びを分けて実施することになった。

準備物としては、段ボール箱、模造紙、マーカー、ガムテープ、割りばし、輪ゴム、宝となる飴、カプセルなどが挙げられた。

(さわやか福祉財団自主事業)

和歌山市立貴志南小学校

遊びの広場

学校と子どもセンター、地域コーディネーター（熊井利将さん）が連携し、大人が見守りに徹することで子どもの力をよく引き出せた取り組みであった。遊びの広場の進行、内容決めや準備など、すべて子どもが積極的に行い、大人が多少サポートするだけで、子どもだけでも充分運営する力があることを証明できた。また、異年齢で遊ぶことで高学年の子が低学年の子を思いやる心が育っていることも実感。少ない回数ながらも子どもたちの成長が感じられた。

第1回「遊びの広場」

実施日時：2009年1月17日（土）9：30～11：30

場 所：貴志南小学校全体

参 加：子ども83人 大人25人（計133人）

協力団体：貴志南小学校、子どもセンター、PTA

実施内容：

1) 校庭・校舎

前半は校舎全部を使った“けいどろ”。後半は校庭で学年別にわかれてドッジボールを行った。

2) 体育館

ペットボトルボーリング、缶積み、松ぼっくりを投げて的に入れるなどの競技を行った。

感 想：

- 進行のメインは子ども達が行い、各遊びごとに担当を決めていたからか、各担当者のがんびりでスムーズに運営できていた。大人のサポートも押し付けがましくなく、また後片付けも子ども達自身で自主的に行うなど、非常に子ども達が積極的だった。
- けいどろでは、普段走り回ることがない校舎の中を思いっきり走り回っていた。しかし、危険な階段は大人が立って様子を見守ったり、注意したりするように子どもたちが考えていた。
- その後の体育館とグラウンドとに分かれたのはよかったと思う。ドッジボールが好きではない子は、体育館で様々なものにチャレンジしていた。
- ドッジボールでは大人も一緒に参加したので、子ども達も真剣になって大人に対抗していた。この時も女子に対しては、男子が下から投げるなどのルールを決めていたし、外野に出たボールを何人かで取ったときに、同時ならすぐにその場でじゃんけんをして決めていた。このように子どもたちの間でルールを決めて遊んでいる姿が印象的だった。
- 子ども会議の時に、おとなしかった男子が前に出て話をしたり、低学年の子どもたちが参加するようにサポートをしたりしていた。



（けいどろ：廊下を元気に駆け抜ける子どもたち）（缶積み：自分の背よりも高く高く）

第2回「遊びの広場」

実施日時：2009年2月7日（土）9：30～11：30

場 所：貴志南小学校全体

参 加：子ども83人 大人21人（計125人）

協力団体：貴志南小学校、子どもセンター

実施内容：

1) 校舎全部を使った鬼ごっこ

前回の反省をふまえ、鬼を少なくした。危険な場所（階段、廊下など）には大人に立ってもらうように実行委員から指示。

2) 体育館で障害物競走

①フラフープを10回くぐる ②平均台を渡る ③ボールをドリブルする ④マットで前転する ⑤跳び箱を飛ぶ ⑥肋木（ろくぼく）を登り、天井にタッチして降りる ⑦戻って④③②を行ってゴール。

高学年と低学年では体力差が大きいので、低学年と高学年に分けて競技を進めた。

3) グラウンドでなわとび

大なわと一人ひとりでのなわとび。

実行委員が各遊びを担当し、他の子どもが遊びやすいようにしていた。

感 想：

○ 子どもたちが非常に積極的で、準備や後片付けも子どもが行うなど、進行も含めてかなり子どもたちによって主体的に遊びの広場が運営されていると感じた。大人の接し方も理想的で、子どもの運営を温かく見守り、お手伝いとして支えていた。

○ 今回大人が手伝ったことといえば、なわとびを回すのに疲れた実行委員が頼みにきたぐらいで、ほとんど実行委員を中心にした子どもたちが行っていた。実行委員の子どもたちと初めて出会った12月の時と比べて、この日の子ども達の表情は達成感と自信にあふれていたように感じた。

○ 鬼ごっこの時、高学年が低学年の子どもに対し、追いかけてもぎりぎりまで逃がしてあげたり、年上の子が年下の子の面倒を見たり気にかけるということが、自然に行われていた。

○ 今回の遊びの広場を通して。

昔はよく異年齢の子ども達で遊んでいたが、だいたい高学年の子がルールを決めてみんなまで遊べるように考えてくれ、自分が高学年になった時には同じように振舞うということが当たり前のように行われていた。貴志南小の低学年の子も同じように、自分が高学年になったら次の世代に受け継いでくれるように思う。命のリレーではないが、遊びのリレーと言えるだろう。



(実行委員の面々。今日の説明をします！) (障害物競走：早く渡れるかな?)

子ども会議

実施日時：2008年12月20日（土）9：30～11：40

場 所：貴志南小学校会議室

参 加：子ども18人 大人9人（計27人）

内 容：

今後2回分の遊びの広場に向けた「遊び」の内容を検討。

事前に学校より子ども会議の内容を書いたものを6年生に配布して参加者を募った。

初めは、なかなか声が上がらずに大人が助け船を出す場面もあったが、基本的には子どもが中心になり会議が進行した。

遊びに関しては、個人では発言がしにくく4、5人のグループで検討することとなる。その後の提案で「せっかくの機会なので、校舎の中を走り回るようなことをしたい」とあったことから、けいどろや鬼ごっこ、逃走中などの意見が次々と出された。

【決定事項】

1月17日 校舎と中庭でけいどろ

（細かなルールを策定する時に先生などの大人の人から提案があがる）

ドッジボール

2月7日 校舎で鬼ごっこ

学校全体で逃走中

体育館を使った遊びもすることになり、

・ペットボトルボーリング ・ビー玉・ドングリなどをストローで飛ばす

・缶積み ・チャレンジコーナー

という意見があがったが、これについては3学期の初めに検討することになる。

また、合わせて校内掲示用のポスターを出来れば作成する。

全校児童へ配布する申込用紙は先生の方で準備する。

（子ども会議後）

- その後、休み時間等を利用して実行委員（貴志南小では子ども会議のメンバーをこう呼ぶ）が集まり、ルール等遊びの内容を決めた。その際、遊びごとに担当者を決めて準備を行う。
- まつぼっくり投げに使うダンボール箱の細工など、準備も子どもたちで行った。缶積み等に使うペットボトルや空き缶は校内放送で子どもたちが全校に呼びかけ、集めるなど主体的に動いていた。



（大人の意見も聞き入れ、一生懸命考える）

地域コーディネーター・実行委員会委員・その他協力団体等一覧(五十音順)

ブロック	地域名	地域コーディネーター	実行委員会委員		その他協力団体等
北海道・東北	盛岡市	谷藤 康浩 (月が丘小 おやじの会 世話人)	石戸 満	月が丘小学校PTA会長	岩手大学天体クラブ
			小田島 清美	月が丘小学校教頭	盛岡市少年指導員連絡協議会
			澤村 憲照	月が丘小学校校長	
			沼田 昭	月が丘小学校おやじの会 代表世話人	
			森田 美彦	盛岡市教育委員会生涯学習課主査	
関東ブロック	宇都宮市	大門 美砂子 (今泉保育園 園長)	青山 美奈	けやきのもり運営委員	今泉保育園
			大森 照江	けやきのもり運営委員	宇都宮市消防第七分団
			甲田 朋江	今泉小学校PTA副会長	バンビーニゆめ保育園
			高田 玄	宇都宮市教育委員会生涯学習課	
			星宮 敏一	宇都宮市教育委員会生涯学習課	
			福田 順一	今泉小学校副校長	
中部・北陸ブロック	長野市	田口 和男 (下氷鮑小 PTA会長)	青木 敬子	下氷鮑小学校PTA副会長	株式会社佐藤園芸
			青木 涼子	下氷鮑小学校鮑会部長	小山木材株式会社
			岡澤 義廣	下氷鮑小学校祖父母の会副会長	地域住民有志ボランティア
			小林 昭寛	下氷鮑小学校教頭	
			小山 美奈子	下氷鮑小学校PTA副会長	
			塚田 恵美子	下氷鮑小学校祖父母の会副会長	
			正村 昌男	下氷鮑小学校祖父母の会会長	
			近畿・中国ブロック	松江市	真玉 利子 (古志原小 PTA副会長)
井上 千哉子	古志原小学校PTA副会長	古志原小学校放課後子ども教室ボランティア			
金山 美幸	古志原小学校教頭	島根県立松江工業高等学校			
角 純二	古志原小学校PTA会長	島根県立松江農林高等学校			
空野 美穂子	古志原小学校PTA	松江市立第四中学校			
竹谷 強	古志原公民館館長				
松本 卓也	古志原小学校PTA副会長				
四国・九州ブロック	阿南市	常見 裕之 (子どもの笑顔 応援団 「黒子の会」)			
			小西 嘉代子	徳島県学童保育連絡協議会事務局長	阿南市立平島小学校学童保育クラブ
			佐藤 芳輝	那賀川公民館次長	阿南市社会福祉協議会
			中村 晃一	地域ボランティア	阿南市教育委員会生涯学習課
			福良 充雄	地域ボランティア	子どもの笑顔応援団「黒子の会」
			四宮 アントニー	平島小学校PTA	中学生ボランティア
					徳島県青年海外協力協会
					日本国際協力センター

※ご協力いただきました地域コーディネーター、実行委員、協力団体、教育委員会の皆様に感謝申し上げます。

ホームページ紹介

<http://www.sawayakazaidan.or.jp/>

トップページ下の[子どもの健全育成]をクリックしてください。
社会参加推進事業子どもと交わろうプロジェクトの中に、
ホームページを開設しています。また、本報告書をPDF
でもご紹介していますので、ご活用ください。

文部科学省委託事業「総合的な放課後対策推進のための調査研究」事業

地域協働による子ども主体の放課後の居場所づくり 報告書

発行日 2009年3月

発行 財団法人さわやか福祉財団 子どもと交わろうプロジェクト

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-8 日本女子会館7階

TEL 03-5470-7751 FAX 03-5470-7755